

## 金沢真宗学院 移動研修会 親鸞聖人の「流罪」を尋ねる

9月6・7日の一泊二日、親鸞聖人の流罪地である上越を訪ねる真宗学院の「移動研修会」が行われました。

一日目に訪ねた「光源寺」と「本願寺派国府別院」のお内陣は親鸞聖人の御影が正面に配され、右側に阿弥陀如来像が安置されていました。このような形を初めて見た私は驚きと共に、聖人がこの地

の方々にとだけ大きな影響を与えたのかを表し、後世の私たちにまでその事を伝えるためにとられた形であるのだろうと感じました。

二日目に訪ねた「ゑしんの里記念館」では、親鸞聖人の妻としてではなく、恵信尼という一人の人物の生涯や想いに触れ、今まで私には無かった視点での新鮮な学びとなりました。

二日間の研修を通して他にも「居多ヶ浜記念堂」や「浄興寺派本山浄興寺」など多くの地をめぐりました。建物は大きな修復や建て替えがされており、見せて頂いた宝物にも修復の跡が多く見受けられました。これまで、そして今現在その場所を護っている方々が、親鸞聖人の流罪での生活を深く受け止め大切に伝え続けてくださっている証であると感じ、自身の親鸞聖人の流罪についての捉え方は非常に浅いものであったのではないかと考えさせられる研修となりました。

### 小松雪衣(第六組 浄誓寺)

## 金沢教区同朋総会 開催 つながりを見直し「場」を創る

9月18日、金沢真宗会館ホールにて「金沢教区同朋総会」が行われました。

総会は二部構成で、前半は講師



教区同朋総会(金石潤導氏)

に金石潤導氏(北海道教区開正寺住職、青少年センター研究員)、驚嶺彰宏氏(青少年センター主幹)の2名を招き、若者世代に向けた教化活動の「場」についてお話いただきました。後半は当日の参加者が7つの班に分かれて座談を行い、その後、各班で話し合われた課題を全体で共有しました。

講義では「人間」という言葉に注目して、人と人と同じ時間を共有する「場」ということの意味を確かめました。金石氏は私たちは一人では人間とはならず、必ず他者の存在がある中で人間として生きていくのであると述べました。

座談では私たちが求め、大切にしていけるべき「場」とは一体どのようなものであるのか、また現代社会においてそのような場は若者に対して十分に開かれているのかなど、語り合われました。そこから寺院が「場」として求められていることや若者教化に必要なことは何であるのかを確かめ

ました。

現代社会において、私たち人類は人としての共同体でありながら「場」というものを徐々に軽んじてきたのではないのでしょうか。しかしそれは、人が人間として生きていくために必要なものであると今回の同朋総会で再確認できたように思います。寺院に携わる者としてどのようなことができるのか考え続けていくことが大切であると思いました。

### 月輪直樹(第四上組 願念寺)

## 男女共同参画推進小委員会 女性僧侶のつどい 開催

私は寺の一人娘として生まれ、夫は在家出身で婿養子となり入寺しました。法務は、普段は住職である父と私とで勤め、休日には、サラリーマンの夫も加わって勤めています。

今回、この案内をいただいた時には、どれくらい的女性僧侶が教区にいて、どのような事を考えられているのかとても気になりました。参加してみると、女性住職、僧侶、坊主、結婚して入寺された人など、たくさんの方の参加に驚きました。また、香城奈津子(常本寺)、新田唯菜氏(上宮寺)、小松雪衣(浄誓寺)の3名の女性僧侶のお話を、深くうなずきながら聞かれる方が何名もおられたのがとても印象的でした。門徒離れが進

む中で、寺が地域のつながりや交流の場になるよう、どのように工夫したらよいのか、女性として、僧侶、母、妻としての役割との両立に向き合う中での不安や悩み。そして、寺の継承問題等で、門徒方にはまだまだ男性優先の意識が根強く残っている事など、どの課題も、私自身の問いとして考えさせられるものばかりでした。

世代や社会が変わり、性別・ジェンダーなど、新しい認識や多様な価値観が少しずつ受け入れられるようになってきました。今回の研修を通じて、自身の不安や悩みをお互いに語りあうことによって、これまで漠然としていた自分の現実をスタート地点として受けとめることが出来た気がします。聞法は男女を問いません。その平等な世界が早く開かれればよいなと思いました。

### 亀塚菜津子(第十一組 専信寺)



女性僧侶のつどいの様子(教務所2階広間)